

「自立活動」さらなる充実に向けて

＜令和8年度「みんなの笑顔」特別支援教育研修会＞

6月29日（月）、小・中学校特別支援学級担任を対象に、「みんなの笑顔」特別支援教育研修会を開催しました。今回の研修会のゴールを『自立活動の基本的な理解を深め、指導の重要性を理解し、実践力の向上を図る』とし、実践発表や講義、研究協議を通して、自立活動の指導が目前にいる子どもたちにとって、いかに重要であるかを確かめました。その中で、「子どもの願い」と「先生の願い」の両方を大切にした授業づくりの実現に向けて、学びを深めました。

実践発表

向日市立向陽小学校 出野理恵 教諭



「子どもの願いや実態」を正確に把握し、それを土台にした自立活動や各教科の指導の実践を発表していただきました。主なポイントとして、

- ・「できない」部分を補う指導ではなく、「できる・好き」をさらに伸ばしていくという視点を大切にする。
- ・失敗経験は自信を無くしたり意欲を失わせたりすることから、できるだけ成功体験を積み、「自分にもできるかもしれない、やってみよう」という好循環を生み出すことが重要。
- ・課題に取り組む際には、自分に合った学習方法や場を自己選択・自己決定できる場を設け、主体的な学びにつなげる。ということを教えていただきました。

また、後半のアフタートークでは、ご自身が担任された子どもたちが、その後どのような進路をたどり、どのような大人になっていったのかを紹介していただきました。公立高校に進学した子、私立高校に進学しその後、大学に進学した子、就職し今もなお離職せずに働いている子など、様々なエピソードを交えて聞かせていただき、将来を見据えた今の教育実践の重要性を学ぶことができました。

キーワード「子どもの願い」「できる方法を見つけ、成功体験へ」

講義

京都府スーパーサポートセンター 相根良平 様

講義では、自立活動の基本的な理解を中心にお話をいただきました。その中で、自立活動の指導は一人一人違う内容であること、その子に合った中心的課題を6区分27項目から適切に選ぶことの重要性を学びました。



演習・研究協議

実践発表と講義を受けて、「これからの授業づくり」について研究協議を進めました。指導目標の立て方や指導内容を考える際の具体的なポイントを提示していただき、それをもとに今後の「自立活動」の授業づくりについて考える、貴重な時間となりました。

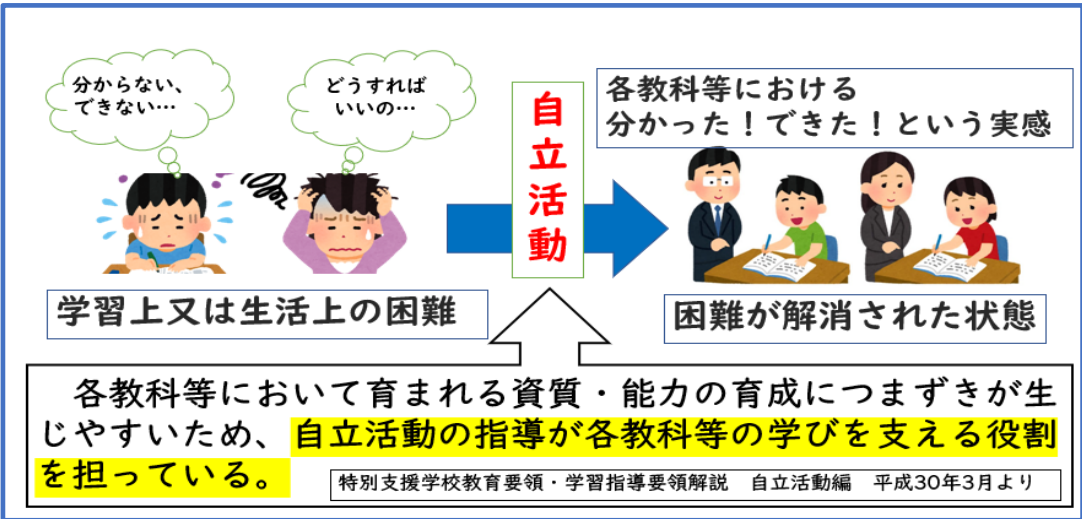


キーワード「一人一人異なる自立の在り方」

キーワード「普段の生活や学習につながる自立活動」

学びの要点

参加者の声



- ・わくわく感のある自立活動の授業をしていきたいと思いました。子どもたちが、自分の課題を自分で感じ、楽しみながら克服していく姿をこれから目指していきたいです。
- ・人に合わせて生きていくのではなく、自分の個性を生き輝いて社会の一員として生きていく力を付けていくことが大切だと学びました。「このやり方ならできる」「やればできる」という自信や、「やってみたい」という意欲を引き出せるように対話をしながら授業づくりをしていきます。
- ・自立活動において、なぜその活動をするのか、この活動を通してどんな自分になれるのか、具体的なイメージを子どもたちと共有していくことの大切さを再確認できました。
- ・将来を見据え、自分の得意なこと苦手なことを知ったり、苦手なことを補う手段を見つけたり、さらには困ったことを他者に伝えたりする力が重要だと学びました。

